

《歯学部》歯学科

・ディプロマ・ポリシーに大いに対応するものは◎、少し対応するものは○を、授業毎にチェックする。

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】				【2. 汎用的技術】				【3. 態度・志向性】				【4. 総合的な学習力と専門的実力】			
		患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。				論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。				歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけて、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。				医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。			
科目の教育目標																	
解剖学1AB		◎													解剖学(1)では、口腔領域のみならず人体全身について、歯科医師として、全人的医療に対応しうる解剖学知識を修得させることが目標である。ここでは骨、筋、脈管、神経などの系統別に講義を行い、全身の解剖学の知識を習得させる。		
解剖学1C講義		◎													歯科医師に必要な口腔顎顔面領域と前頭部について、系統の異なる解剖学知識の三次元構築を体表から部位毎に学ぶ解剖学の講義を行い、歯科臨床手技の解剖学的エビデンスが理解できるようにする。		
解剖学1実習		◎						◎		◎					無償で提供された2人体を用いて、全身の人体解剖を局所解剖学的に行うことで、産学で得た系統別の解剖知識を局所解剖学的なもの置き換えさせ、人体の解剖構造を全人的に理解させるとともに、群像の形態を体得させる。		
解剖学2AB		◎			◎										1. 人体の構造は様々な細胞が集まって組織ができ、組織が組み合わさって器官と臓器があり、さらに臓器が集まって成立する。このような組織、組織および臓器の形態と機能を理解する。 2. ヒトの歯のひとつひとつの形態、異常、直立方向などの特徴を知り、それぞれの歯を識別する能力を養い、その駆動作用を理解する。 テクニカルチームは英語またはフランス語を用い、グローバル化に対応できるよう掛けている。		
解剖学2C		◎			◎										2年次後期で学習した一般組織学についての知識を基盤にし、歯と口腔及びその周辺組織の正常な構造を顕微鏡レベルで理解し、それに関連する発生学を学ぶ。テクニカルチームは英語を用いる。		
解剖学2実習		◎						◎		◎					1. 講義で習得した知識を基盤として、人体を構成する正常な臓器の組織構造を実際に自分の目で観察し、器官の組織学的な特徴を理解する。 2. 歯牙解剖学講義で学んだ歯の特徴を基盤として、彫刻刀を用い、石膏棒から歯の形を仕上げることにより、各歯牙の形態を理解する。 3. 講義で習得した知識を基盤として、顎・口腔領域の正常な組織構造を実際に自分の目で観察し、組織構造の理解をいっそう深める。		
生理学AB															正常な内分泌系の働きを学び、内分泌ホルモンの分泌異常がもたらす疾患についても理解を深める。神経系における情報処理の基礎的メカニズムおよび神経の興奮から筋収縮に至る一連のメカニズムを理解する。		
生理学CD		◎													人体の各臓器・組織の働きについて理解する。また、神経系、および内分泌系による各臓器・組織の調節機構について学習・理解する。生体の情報伝達機構と中枢における入出力の制御機構について理解する。		
生理学実習		◎													人体の生理機能を、実際に自分の目で確かめ、測定し、その手技を習得する。さらに計測結果(数値)を統計処理などにより整理し、正しく図表に現す。得られた結果の生理学的意義について理解する。		
生化学AB		◎													生体の働きを分子レベルで理解するために、 ①生体を構成する4大構成成分タンパク質、脂質、糖質、核酸の構造と機能 ②生命維持活動に必要なエネルギー代謝 ③遺伝情報の流れ について学習する。		
生化学CD		◎													生体の働きを分子レベルで理解するために、「生化学A・B」で学習したことを基盤として、 ①高次生体構造とその機能 ②人体諸臓器の発生・分化・加齢の仕組み及びそれに伴う変化や異常による疾患 ③口腔内構造物の発生・分化・機能 について学習する。		
生化学実習		◎													生化学講義で履修した内容を、実際に自分の目で確かめ、より理解を深めることを目的として生体成分の分離・定量や生体試料を用いた手技を習得する。さらに標準モデル動物を用いて、その病因・病態を分子レベルで理解し、臨床生化学の基礎を確立する。		
病理学AB															疾患の成立をトータルな生命現象として総合的に理解することを目的として、臓器・組織・細胞・物質レベルで学習する。		
病理学CD															顎口腔領域の様々な疾患の成立をトータルな生命現象として理解することを目的として、臓器・組織・細胞・物質レベルで学習する。		
病理学実習															人体の病的変化を肉眼観察と顕微鏡観察を通して臓器・組織・細胞レベルで理解する。		
細菌学AB		◎													微生物の種類と特性を理解する。感染と生体の防御機構を理解する。防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。		
細菌学CD		◎													微生物の種類と特性を理解する。口腔細菌の特徴と病原性を理解する。		
細菌学実習		◎													細菌学の講義で学んだ微生物学、免疫学を実際に体験することによって、理解をより深める。現在では分子生物学の分野においても微生物学は顕著に用いられているので、その取り扱いに習熟する。		
薬理学AB		◎													薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、疾患の治療や予防に適する薬物を選択する能力を身につける。		
薬理学CD		◎													薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、疾患の治療や予防に適する薬物を選択する能力を身につける。		
薬理学実習		◎													講義で学んだ薬物を、実際に動物あるいは抽出臓器に作用させ、その効果を観察することにより、生体の機能と薬理作用の関係を具体的に把握する。		
歯科理工学AB		◎													歯科材料に要求される物性と所要性質を理解し、歯科で用いられる材料の適切な成形・加工法を理解する。具体的には材料の一般的性質、評価法、金属・ポリマー・セラミックスの特性と成形法、材料の微細構造の制御とそれらによる特性の変化について学習する。		
歯科理工学C		◎													歯科で用いられる材料の特性と適切な成形加工法を学ぶ。		
歯科理工学実習															材料の微細構造と特性の相関に関する理解と、材料の用途に応じた所要性質の理解を基に、成形法による材料の微細構造の変化とそれによる性質、形状などの変化を実験的に確認し、用途に応じた最適な成形法についての理解を深める。		
衛生学/公衆衛生学		◎													個人と集団の両者を対象として、健康の保持・増進と疾病の予防の実現を図る衛生学の全体像を理解することにより、歯科医師法第1条で定められた「歯科医師の任務」を遂行するための、必須の素養を身に付ける。		
予防歯科学A		◎													歯科基礎医学の各科目の知識に基づき、口腔の健康な状態の特徴と病的変化を理解し、それを自ら解説できるようにする。そして歯科の大疾患である齲蝕症と歯周疾患を中心に、歯科疾患の病態に基づき予防・健康の保持・増進の科学的方法を基本を身に付ける。		
予防歯科学B		◎													疫学を理解し、科学的根拠に基づいた歯科疾患の予防と口腔の健康増進の実践技法を解説できるようにする。集団を対象とした場合(地域保健活動)と個人を対象とした場合(歯科臨床)の相違点と共通点を説明できるようにする。		
予防歯科学実習															衛生学と予防歯科学の講義で習得した知識について、十分理解を深めるとともに、問題解決に必要な態度と能力を養う。基礎的実習、示談演習、歯ブラシ工場見学実習などを行い、衛生学と予防歯科学の素養を習得するとともに、環境衛生学や公衆衛生学に生じている基本的な技術と技術を身に付ける。		
歯科保存学1A		◎													1)歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解する。2)それらの疾患を認識するための診察法を知り、正しい診断が行える能力を養う。3)各種の治療・予防法について、その方法の背景や意義、術後経過についての知識を修得し、治療法の選択の指針を理解する。4)歯科に特徴的な治療法、すなわち欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基本知識を修得する。		
歯科保存学1B		◎													1)歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解する。2)それらの疾患を認識するための診察法を知り、正しい診断が行える能力を養う。3)各種の治療・予防法について、その方法の背景や意義、術後経過についての知識を修得し、治療法の選択の指針を理解する。4)歯科に特徴的な治療法、すなわち欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基本知識を修得する。		
歯科保存学1実習															歯科保存学講義で履修した内容を、模型あるいは患者の口腔内を想定したマネキンを用いて実際に各種の保存修復処置および歯内療法を行い、臨床実習に進む前により理解を深め、治療技術を習得することを目的とする。		
歯科保存学2A		◎													歯周病の発症原因と病態を理解し、歯周病の診断、治療計画の立案、歯周基本治療を把握する。		
歯科保存学2B		◎													歯周外科治療、歯周病のメインテナンスの概要を把握する。慢性性歯周組織疾患を理解し、その治療法を把握する。		
歯科保存学2実習															歯周治療および歯内治療における診察法や治療法の実践的モデルを使って把握する。		
歯科補綴学1A															歯列の全部欠損に対する補綴修復の意義と方法、高齢者の身体的、精神的及び心理的側面および口腔健康管理の重要性を理解する。		
歯科補綴学1B															歯列の一部欠損に対する補綴修復の意義と方法、高齢者の身体的、精神的及び心理的側面および口腔健康管理の重要性を理解する。		
歯科補綴学1実習															講義で得た知識をもとに、全部欠損歯および部分欠損歯製作の基本的な手技を修得する。		
歯科補綴学2A		◎													冠橋義歯による補綴治療に必要な基礎的な知識と術理について学習することにより、歯科医師として必要な能力の習得を目指す		
歯科補綴学2B		◎													冠橋義歯による補綴治療に必要な基礎的な知識と術理について学習することにより、歯科医師として必要な能力の習得を目指す		
歯科補綴学2実習															冠橋義歯による補綴治療に必要な知識と術理を実践することによって、歯科医師として必要な技能の習得を目指す		
口腔外科学I(口腔内科)AB		◎													超高齢社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。		
口腔外科学I(口腔内科)C		◎													超高齢社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。		
口腔外科学II(口腔外科)A															外科的処置に必要な滅菌・消毒法の概念・基本的処置法を身につけ、口唇・口腔・顎・顔面領域の外傷、先天性・後天性異常の病態を理解し、診断並びに治療法を修得する。		

研究基礎ゼミ	◎	○	◎	◎	研究基礎ゼミは、歯学科の研究室(診療室を含む)に学生が実際に出入りしながら研究生活の一端を体験し、人的交流をはかることによって全人教育をめざすことを目的とする科目である(平成17年度より実施)。このプロセスを通じて、専門知識論文の読解力の向上、研究や臨床における問題点の提起あるいは問題解決能力の育成など、自ら考えることのできる機会を学生に与えるとともに、この科目が基礎科目や臨床科目を学ぶにあたっての勉学意欲の向上や将来研究者を目指す学生への影響付けの場となることを期待する。方法として、学生を2研究室に固定配属する(各研究室2~3人)、学生の配属先は学生の希望を考慮して教務委員会で決定する。
歯科英語	○	◎		◎	歯科医師になるために必要な基礎用語、語源学、実用的な歯科英語に学生たちが慣れ親しませる。
社会と歯科医療	◎		○	○	国民の健康確保のための歯科医学・歯科医療の仕組みについて、関連する保健・福祉・介護サービスの仕組みとともに、歯科医師としての関りの立場から学習する。あわせて、地域医療・地域貢献などの現状を理解し、今後のあり方について考える。
加齢歯科学	○		○	○	高齢者の口腔管理、歯科治療、歯科関連リハビリテーションに必要な基礎的知識を学習する。
バイオマテリアル/バイオエンジニアリング	◎		◎	◎	材料と生体、あるいは生体を構成する歯骨や組織、細胞や細胞外基質の相互作用を巧みに生かした、新しい診断や治療の方法が医療の中で極めて重要になってきている。こうした治療に利用される材料/バイオマテリアルの材料科学、生体の応答、生体計測法とその臨床応用技術についての、基礎と臨床を融合した、口述を通して、先端歯科治療を考える。
医の倫理と安全管理	◎		◎	◎	歯科医療および歯科医学の研究における倫理の重要性を理解し、安心・安全の医療を提供するための基本的知識を身に付ける。EBMやNBMなど生体学習方法について身につける。
医療コミュニケーション	◎		◎	○	患者本位の医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につける。
口腔インプラント学	○		○	○	歯列欠損の種別治療として確立したインプラント治療を行ううえで、必要な知識を修得することを目的とする。
総合歯科学一	◎			◎	基礎歯科医学で学習したことを臨床歯学の基礎として統合し、理解する力を育成する。
総合歯科学二	◎			◎	これまで授業等で学んできた知識をもう一度復習・整理して再確認するとともに、さらに、これらを統合して深い、実際の臨床実習に役立てることを目的とする。
総合歯科学三	◎	○	◎	◎	テーマ1:法歯学・補綴学・口腔外科学について、これまで講義できなかった項目を補いながら授業を進める。 テーマ2:基礎系科目および臨床系科目において習得した「歯周病」について、知識の整理を行うとともに、総合的な観点から「歯周病」を理解することが大きな目的である。歯周病の病態を細胞学的、免疫学的、生化学的側面から理解し、また全身との関わりを学ぶことに加え、臨床面での新しい診断法や治療法の実践を修得する。